第111回　薬剤師国家試験問題検討委員会
「実務」部会報告書

令和8年5月14日

日　時　：　令和8年5月9日（土）13:00～17：00
場　所　：　ZOOM WEB 開催（ホスト：東北医科薬科大学）

出席者
委員長名　　木皿　重樹
所属大学名　東北医科薬科大学

大学	参加校数	参加人数
私立大学	59校	90名
国公立大学	18校	20名
計	77校	110名

アンケート回答大学：78大学

1. 総合評価

第111回薬剤師国家試験の実務における出題は、全体として出題基準に沿った適切な内容であり、薬剤師として求められる基本的知識に加え、臨床現場で必要とされる判断力・応用力・問題解決能力を評価する構成となっていた。特に実践問題では、患者背景、検査値、併用薬、生活環境など複数の情報を統合しながら適切な薬学的介入を問う出題が多く、単なる知識や暗記ではなく、実臨床を想定した総合的思考力を重視する出題傾向が強く認められた。

出題範囲については、病棟業務、薬局業務、地域医療、多職種連携、学校薬剤師、ACP、OTC、アンチドーピング、副作用対策など、薬剤師職能を幅広く網羅した内容であったとの意見が多く見られた。特に、服薬指導、検査値評価、処方提案、相互作用、副作用マネジメントなど、実務実習での経験と関連づけて解答する問題が多数出題されており、実習を通じた学修成果を確認するという観点からも妥当な出題であったと考えられる。一方で、学校薬剤師関連問題が連続して出題された点や、実習施設によって経験差が大きい内容、新薬に関する知識を問う問題については、出題範囲や学習機会の公平性に配慮を求める意見も認められた。

難易度については、「概ね標準的」「例年並み」と評価する意見が多数を占めた。必須問題および単独実践問題は比較的平易であり、基礎的事項の理解度を適切に確認する内容であったと考えられる。一方、複合問題については例年と同程度の難易度であり、薬物治療への提案、副作用対策、地域医療、疾病予防などに関して重点的に出題されていた。また「既出問題をよく理解し、基礎知識がしっかりしていれば対応可能」との評価もあり、極端な難問化ではなかったと考えられる。臨床・実践的能力を問う問題も増加しており、国家試験として妥当な構成であったと考える。全体として、第111回薬剤師国家試験実務分野は、薬剤師に求められる臨床判断力や実践力を重視した良質な出題であり、今後の薬学教育および実務実習の方向性とも整合する内容であったと総括する。

２．各項目の評価

（１） 誤りがあると判断された問題

問 287：正答が 3 つあり、いずれか 2 つ選択で正解とすることが厚生労働省より発表されている。
脳出血を起こすおそれの高い患者において、投与前に適切な降圧治療を行っても、収縮期血圧が 185mmHg 以上又は拡張期血圧が 110mmHg 以上の場合、アルテプラーゼは禁忌となっている。したがって、アルテプラーゼが正解かどうかは判断が難しい。また、正解が 3 つあることで、検討の余地あり。

以下の『(2)問題の観点から不適切である問題』と『(3) 問題・選択肢の表現が不適切である問題』に挙げた問題は、基本的には評価できると判断された問題であるが、問題内容の一部を工夫すればもっと良い問題となるであろうと建設的に評価（議論）した結果を提示したものである。今後の国家試験問題作成の参考になれば幸いである。

（２） 問題の観点から不適切である問題

問 290：妊娠中ではなく妊活中のため、痛みなどについては子宮内膜症などもあり得る。この場合は受診勧奨のほうが優先ではないか。したがって，場面設定に問題の可能性あり。

問 328：子どもがタバコを口に入れた際に、薬局には行かず救急車を呼ぶ方が自然であり、場面設定に疑問が残る。薬局に来たとしても受診勧奨が最適。出題者の意図にもよるが、「受診勧奨をしたうえで、早急に実施する内容として母親に薬剤師が提案する対応は」などの表現の方が望ましいと考える。

問 330：血圧コントロールのことを考えると、テルミサルタンからテルミサルタン・ヒドロクロロチアジド配合錠への変更ではなく、ヒドロクロロチアジド錠の追加で良かったのではないか。問題文がやや冗長であり、もう少し情報を精査して出題することが望ましい。

問 333：正答には影響しないが、デノスマブの添付文書では、「あらかじめカルシウム及びビタミン D の補充等により、低カルシウム血症を是正した後に本剤の投与を開始すること」と明記されているため、Ca 値 8.3 mg/dL の状態で、デノスマブとデノタスを「同時に開始となった」とするリード文の記述は、不適切な処方例となってしまう可能性がある。処方 2 の薬剤は、処方 1 の薬剤の副作用を『軽減』よりも『予防』の方が、添付文書記載に準じた表現であり、より適切であると考えられる。

問 344：飲酒試験の内容をこれから薬剤師になる前の学生にとって（実際に経験がある薬剤師もかなり少ないと思われる）、必要な知識なのかやや疑問が残る。

（３）問題・選択肢の表現が不適切である問題

問 85：言葉の定義上は選択肢 5 で間違いないが、選択肢 2 も完全に誤りとは言えず、受験生が迷う可能がある。

問 86：図の指し示す番号が縦に並び分かりづらいので、一部図の左側への配置が望ましい。
問題文に「心肺蘇生時」等の記載があると、薬剤師国家試験として出題目的が分かりやすい。

問 88：診療報酬的に考えると、言語聴覚士の関与が適切であるのは間違いないが、必須問題として

評価の部分を読み取ることはやや難度が高く、管理栄養士との連携を想像する学生も多いと考えられることから、5の選択肢を別の関連が薄い職種にするのが望ましい。但し、多職種連携を問う問題としては良問と考えられる。

問 89：クリニカルパスにおけるバリアンスとしては3の選択肢が最適であるものの、「計画した診療・ケアの提供（プロセス）が行われなかったり，期待していた成果（アウトカム）通りには至らなかったりした状態がバリアンスである。」（日本医療病院管理学会）とあるため、1の選択肢（場合によっては2も）も正答となりうる可能性があり、必須問題として出題するには受験生にとって難問であると考えられる。

問 197：尿酸排泄促進薬が処方されていない状況での尿アルカリ化薬の使用に対する疑問が残る。実務実習で十分に学んでいれば解答できる内容であるが、「毎日ビールを飲み続けても構いません」とあまりあり得ない指導が含まれている。

問 198: 良問であるが、添付文書の知識中心の設問であり、患者背景・前治療量・切り替え目的等の情報を追加すると、より実務的な判断を要する問題となるのではないか。多くの腎排泄型薬剤がある中で個々の薬剤の腎機能低下時の具体的用量までを国家試験で問う必要があるか疑問が残る。抗精神病薬の切り替え時における開始用量について、添付文書に記載がなく、経験的に行われている内容を問うことへの懸念がある。アカシジアの主訴は「下肢のむずむず感」や「じっとしていられない」という捉え方のため、錐体外路症状の方が適切な表現ではないか。製剤設計（OROS）について、大学で個々の製剤までの詳細に触れていない可能性がある。

問 200：症例患者の服用薬剤をリード文内に提示した上で選択肢を示した方がよいのではないか。造影剤（アデノスキャン）の薬理学的な講義では触れているが、実臨床における相互作用等の注意点までは教えられているかについては大学間でも差がある可能性がある。

問 207：厳密に添付文書の用法・用量に従うのであれば、Ccr48mL/min のためレボフロキサシン注射液の維持量は 500 mg ではなく 250 mg へ減量すべきである。点滴からの切り替えであるため、ローディングは必要ないのではないか。また、検査値のわずかな変化（Ccr 52→48）に対して、「低下を認める」と断定することへの違和感。また、これに対してレボフロキサシン注射液を直ぐに減量するかどうかは判断が難しいのではないか。

問 217：高血圧治療中であるものの、併用薬が無いところに問題文として矛盾がある。また、カルボシステインは、通常成人1回 500mg を1日3回経口投与が基本と考える。

問 221：デュロキセチンカプセルが1回1錠と記載されている。デュロキセチンとパロキセチンによる併用は添付文書上の併用注意でしかなく、デュロキセチン減量も選択肢としては棄却できないのではないかと考える。

問 222：フロプロピオン酸には、腹部膨満感や便秘の副作用があるため、選択肢 3 は誤りと言い切れないのではないかと考える。

問228:患者状態の記載が不十分(検査値上の判断)のためVCM中止の判定は決められないと考える。

問 236：糖尿病患者にオランザピンは禁忌とされているが、実臨床では使用する可能性はゼロではなく、国家試験として正誤の判断が難しい問題と考えられる。

問 241：オーバーフローという単語は困惑した学生が居るのではないかと考える。

問 246：選択肢の表現は「抗生物質」ではなく「抗菌薬」とした方が良いと考える。

問 248：選択肢 5「～併用により突発的に眠気が出ることがあるため～」とあり、併用による作用増強を想定してはいると思われるが、プラミペキソールは単独でも【警告】で注意喚起されているため、誤解を招く表現であると考えられる。

問 252：選択肢 5 は、尿路感染症発症時の抗菌薬治療が必要であるという意図を示したものと推察されるが、レボフロキサシンは本患者の腎機能や副作用リスク、耐性菌のリスクを考慮すると必ずしも第一選択とは言えないため、表現として不適切である。

問 254：ダビガトランエテキシラートの処方量が、添付文書に記載されている用法及び用量とは異なる。

問 256：患者へ説明の内容として特に、選択肢２，５が適切かどうか疑問である。

問 258：選択肢 2 と 3 は、肝機能検査値のデータにより判断することを求めていると思われるが、ドチヌラドも ALT が 100 を超えている症例への臨床試験、投与経験がないことを考えると、国家試験として問う内容に相応しいか疑問である。

問 263：正答に影響はないが、リード文の処方のラニナミビルオクタン酸エステル水和物吸入粉末剤は 1 容器中の薬剤を 2 回に分けて吸入するため、1 回 2 吸入とするのが適切と考えられる。

問 264：デノスマブの副作用で低カルシウム血症の症状としてしびれを問う問題は、難易度が高いと考えられる。また、化学療法前の説明として「しびれが増す」という表現は不適切ではないか、「しびれが出る」の方が適切と考えられる。

問 268： RID が低いのでエドキサバンも正答となる可能性がある。

問 273：選択肢 1 の血中濃度の確認は、48 時間後だけでなく 24 時間後、72 時間後にも必要と考えられる。

問 277：選択肢 4、5 は法規制度に関する内容であり、薬剤交付時の説明としては、不自然に感じられる。臨床現場で医薬品副作用被害救済制度について薬剤師がどれだけ説明しているかも考慮して問題作成を行った方が良いのではないかと考える。

問 278：リード文からの情報が少ないため、設問の「リスクが高まると考えられる」の意図が読み取りにくいと考える。

問 280：リード文ではアルプロスタジルがバイアルとなっているが、バイアル製剤の商品名はアルプロスタジルアルファデクスである。

問 294：尿ケトン体を測定する試験紙は医療用の体外診断用医薬品であり、通常薬局では販売されない。この薬局での取り扱いがあるか、または受診医療機関から交付されているか記載がない状態での選択は難しいと考えられる。

問 304：シスプラチンは 4 時間投与と考えられるが、この時間では多くの施設では遮光していない。長時間の解釈が難しいとともに、実務実習で経験した受験生が間違える可能性がある。

問 308：「電話で毎日服薬確認する」ことは現実的ではないのではないか？
また、設問として、薬剤師が息子へ電話で本件を提案するのか、息子が父に電話するのかがわかりにくい。

問 311：煎じ薬の調製法を問う姿勢は評価できるが、食間の厳密な正誤判定には疑問が残る。臨床現場では患者に合わせて食前、食後服用を指示することも一般的であり、実習を経験した学生ほど現場との乖離に戸惑う。また、医療用漢方製剤の多くが「食前又は食間」とされ

るなか、薬局製剤指針の記載に固執して一律に食間を選ばせるのは、重箱の隅をつつくような暗記を助長しかねない。

問 316：挙児という言葉より、妊娠希望のほうが設問としては親切と考える。

問 321：電動式の PCA ポンプ（シリンジポンプ）の設定に関する記述が不足しているのではないか、実務実習で取り扱いについて学んでいるかどうかによって、正誤に差が出るのではないか。

問 322：正答肢であるフーバー針の管理については、薬学生に問うレベルではないのではないか。実習施設によっては、フーバー針は入浴のために外さない場合もある。

問 326：治療導入前のカンファレンスにおいて薬剤師が情報提供する内容として、選択肢２の表現『・・・患者に確認した。』は時系列的に矛盾があり、表現の修正が必要と考えられる。また、選択肢 5:「再度点滴を再開する。』は、文字重複（再度再開）のため、『～漏出部位と同一静脈から点滴を再開する。』の表現の方が望ましい。大豆アレルギーの件については教えていない大学が多いのではないか。

問 331：易しめの問題であるため、実践問題としては、インシデントレポートの活用場面や具体的対応まで踏み込んだ方が、より実践的であると考えられる

問 332：イオパミドール等造影剤の使用であれば、甲状腺疾患やヨードへのアレルギー歴、ビグアナイド系の服用歴などの確認の方が重要度や優先度が高いと考えられる。

問 334：問題としては適切だが、本問の選択肢 2 は問 322 の選択肢 3 と同じであるため、同じ時間内の問題としては避けた方が良いと考えられる。また、「食道がん全摘出」という表現は一般的な医学用語ではないため、「食道がんに対する食道全摘術」等の表現の方が望ましい。解答に影響はないが、処方 1 では、注 1 に 1,500 mL 中の成分量が付記されているが、1 バッグ製品用量の記載が必要と考える。

問 340：OTC 販売に関する重要な問題であるものの、かなりの難問であり、販売時の選択肢の妥当性にやや疑問が残る。

問 342：外来化学療法として、CV ポートが挿入されている前提となっているが、入院下であれば末梢静脈から 2 日間かけて投与することもあり得るため、選択肢５が完全に誤りとは言えない可能性がある。FOLFOX において、投与時間を記載した方が望ましい

問 343：オキシコンチン TR 錠 20 mg の用法に関して、国家試験問題としては、「1 日 2 回朝夕食後」よりも「1 日 2 回 12 時間ごと」の方が望ましい。選択肢 4 はフェンタニル貼付剤に対するレスキュー薬との誤解を生む可能性がある。また、この症例設定では一概に使用できないとは判断できない。オキシコンチンの服用時間指示を記載する方が良い。

問 345：治験業務を問う問題として評価できるが、技能や態度、アセスメント能力などを問う問題として再設定するとよりよいと考えられる。

（４）複合性が不適切である問題

問 200：症例の問題解決に関係なく、単独でも成立する問題である。

問 205：症例の問題解決に関係なく、単独でも成立する問題である。

問 304：症例の問題解決に関係なく、単独でも成立する問題である。

（５）授業で教えた内容か

問 205：ロキソプロフェン Na テープに金属が含まれるか否か、さらには MRI 検査時における火傷の発生との兼ね合いまで教えているかは疑問である。難易度が高い。

問 219：目薬の添加物としてベンザルコニウムについては触れているが、カラーコンタクト着用時の使用不可に関しては教えていない。また、クロルヘキシジンの添加剤としての意義までを問うのは難易度が高いのではないか。現代のコンタクトレンズの多様性に応じた講義展開をしなければならないことを感じた。

問 242：大学および実務実習（学校薬剤師体験）において、石油燃焼時に発生する二酸化窒素についてまで教えられているか疑問である。

問 329：比較的新しい薬剤であり、実習や授業で取り扱っていない可能性があるため、回答を導き出すために必要となるような作用機序や薬理学的な特徴に関する医薬品情報を提示することが望ましい。

問 311：多くの大学で、煎じ薬の調製法まで教えていないといった意見であった。

（６）その他特記事項（薬剤師国家試験として高く評価できた問題を含めて）

問 83：医療安全の観点から、良問である。

問 84：周術期に休薬が必要な薬剤についての知識を問う良問である

問 214：単なる知識の暗記にとどまらず、患者の「証」から実践的な対応・判断を導かせる良問と考えられる。

問 230：特定保健用食品の知識を問う内容で、大切なポイントを押さえており良問といえる。

問 335：当量と浸透圧の両方を考慮すべきな上に、50%ブドウ糖液の選択肢の数値の違いがわずかであることから、計算にかなりの時間を要する。ただし、当量と浸透圧の両方を考慮する計算問題としては良い問題と考えられる。

問 339：問題自体は平易であるものの、実践問題における連問であり、薬剤の説明、服薬（生活）指導を問うた良問と考えられる。

問 341：令和 8 年 2 月より販売が可能になった要指導医薬品である緊急避妊薬にも関連する時事に合った内容で良問と考えられる。

３．各問題の評価結果

別紙１のとおり

別添１　第 111 回薬剤師国家試験問題検討委員会「実務」部門　評価表

問題番号		誤り			適切性			表現			授業で教えている		
		ある	ない	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	いない	いる	一部
必須問題	81	0	77	0	0	77	0	0	77	0	4	72	1
	82	0	76	1	1	73	3	0	74	3	5	63	9
	83	0	77	0	1	76	0	1	76	0	3	70	4
	84	0	77	0	1	75	1	0	77	0	5	62	10
	85	0	77	0	0	76	1	1	76	0	4	65	8
	86	0	77	0	0	74	3	2	72	3	7	64	6
	87	0	77	0	0	75	2	0	77	0	3	69	5
	88	0	76	1	0	71	6	2	74	1	14	52	11
	89	0	72	5	1	69	7	4	67	6	11	53	13
	90	0	77	0	0	77	0	1	76	0	3	74	0

問題番号		誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えている		
		ある	ない	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	いない	いる	一部
薬学実践問題	326	0	77	0	0	75	2	1	76	0	0	61	16	8	61	8
	327	0	77	0	1	76	0	0	77	0	0	61	16	3	70	4
	328	0	77	0	2	70	5	4	71	2	1	57	19	11	53	13
	329	0	77	0	1	73	3	3	74	0	1	59	17	14	50	13
	330	0	77	0	1	73	3	3	72	2	0	60	17	2	64	11
	331	0	77	0	0	76	1	3	74	0	0	62	15	3	71	3
	332	0	76	1	0	76	1	0	75	2	0	60	17	10	57	10
	333	0	77	0	1	75	1	5	70	2	0	61	16	4	66	7
	334	0	77	0	1	75	1	3	70	4	1	59	17	3	69	5
	335	0	76	1	2	70	5	1	74	2	0	60	17	2	68	7
	336	0	77	0	1	75	1	2	73	2	1	60	16	5	64	8
	337	0	77	0	0	77	0	1	76	0	0	59	18	2	67	8
	338	0	76	1	0	77	0	0	76	1	0	63	14	3	68	6
	339	0	77	0	0	76	1	0	77	0	0	64	13	5	65	7
	340	0	74	3	2	71	4	3	72	2	1	58	18	6	55	16

	341	0	76	1	0	73	4	1	75	1	1	55	21	17	47	13
	342	0	77	0	0	77	0	3	74	0	0	58	19	3	68	6
	343	1	76	0	0	76	1	4	70	3	0	58	19	5	64	8
	344	0	76	1	3	73	1	0	77	0	0	58	19	12	51	14
	345	0	75	2	0	75	2	2	72	3	0	55	22	5	64	8

問題番号		誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えている		
		ある	ない	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	いない	いる	一部
複合問題	197	0	77	0	0	76	1	1	76	0	1	70	6	6	66	5
	198	1	75	1	3	68	6	6	70	1	2	72	3	7	47	23
	200	0	76	1	2	66	9	1	75	1	2	70	5	10	48	19
	202	0	77	0	0	77	0	2	75	0	2	70	5	7	56	14
	205	0	75	1	1	71	4	7	66	3	3	68	5	9	52	15
	207	2	73	1	1	72	3	9	63	4	2	69	5	3	67	6
	209	0	76	0	0	75	1	2	72	2	1	70	5	3	70	3
	210	0	76	0	0	76	0	3	73	0	1	69	6	4	67	5
	212	0	76	0	1	74	1	3	72	1	2	71	3	4	70	2
	214	0	76	0	0	76	0	4	72	0	1	71	4	7	58	11
	217	0	76	0	0	76	0	3	72	1	0	72	4	3	67	6
	219	0	76	0	2	72	2	2	71	3	0	72	4	5	56	15
	221	2	73	1	1	73	2	8	67	1	2	70	4	7	60	9
	222	0	76	0	1	74	1	2	72	2	2	70	4	7	62	7
	225	0	76	0	0	74	2	0	76	0	0	73	3	4	66	6
	226	0	76	0	0	76	0	2	73	1	1	72	3	3	69	4
	228	1	75	0	1	73	2	5	70	1	0	72	4	4	64	8
	230	0	76	0	0	75	1	0	75	1	1	72	3	5	68	3
	232	0	76	0	0	76	0	0	76	0	0	72	4	2	71	3
	234	0	76	0	0	76	0	0	76	0	1	74	1	4	69	3
	236	3	72	1	1	74	1	4	71	1	1	73	2	5	68	3
	239	0	76	0	0	76	0	0	75	1	1	71	4	5	68	3
	241	0	75	1	2	72	2	6	68	2	1	71	4	7	55	14
	242	0	75	1	0	75	1	0	75	1	0	72	4	6	67	3
	245	0	75	1	1	75	0	1	75	0	0	73	3	5	61	10
	246	2	73	0	1	72	2	7	67	1	1	71	3	5	62	8
	248	0	75	0	1	73	1	6	66	3	0	72	3	4	64	7
	250	0	74	1	0	75	0	2	69	4	1	70	4	4	56	15
	252	2	71	2	3	68	4	10	59	6	0	73	2	6	60	9

254	1	74	0	3	72	0	1	74	0	0	72	3	4	66	5
256	0	75	0	1	73	1	1	68	6	0	72	3	4	61	1
258	2	72	1	2	71	2	2	69	4	1	71	3	4	62	9
260	0	74	1	0	74	1	1	73	1	0	72	3	2	69	4

問題番号		誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えている		
		ある	ない	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	不適切	適切	不明	いない	いる	一部
複合問題	263	2	72	1	0	75	0	4	71	0	0	74	1	3	65	7
	264	0	75	0	1	73	1	3	70	2	0	73	2	7	56	12
	266	0	76	0	0	76	0	0	76	0	1	73	2	3	64	9
	268	1	75	0	4	68	4	2	72	2	1	72	3	8	54	14
	271	0	74	2	1	74	1	2	71	3	0	74	2	2	70	4
	273	0	76	0	0	75	1	6	69	1	0	74	2	5	60	11
	274	0	75	1	1	72	3	1	74	1	1	73	2	2	68	6
	277	0	76	0	2	73	1	3	71	2	0	74	2	6	59	11
	278	0	76	0	2	74	0	1	74	1	0	74	2	3	62	11
	280	3	72	1	3	71	2	5	70	1	0	75	1	5	52	19
	282	0	76	0	0	74	2	0	75	1	0	73	3	6	57	13
	285	0	76	0	1	75	0	1	74	1	2	70	4	4	70	2
	287	28	42	5	14	52	9	29	41	5	1	70	4	3	59	13
	289	0	75	0	0	74	1	0	75	0	0	72	3	4	63	8
	290	0	74	1	1	73	1	2	71	2	1	71	3	4	68	3
	293	0	74	1	0	73	2	1	74	0	1	72	2	4	58	13
	294	1	73	1	0	72	3	5	64	6	1	71	3	3	53	19
	297	0	75	0	0	74	1	0	74	1	1	72	2	4	65	6
	299	0	75	0	1	74	0	0	75	0	0	73	2	4	68	3
	300	0	75	0	1	73	1	1	74	0	0	72	3	6	58	11
	302	0	75	0	0	73	2	2	72	1	0	74	1	4	63	8
	304	0	75	0	0	74	1	1	73	1	1	72	2	3	61	11
	307	0	76	0	1	75	0	0	76	0	0	71	5	4	66	6
	308	0	76	0	2	73	1	2	70	4	0	74	2	3	68	5
	311	0	76	0	0	69	7	2	72	2	0	70	6	13	47	16
	312	0	76	0	1	73	2	0	75	1	0	74	2	10	53	13
	314	0	76	0	0	75	1	0	75	1	0	72	4	3	64	9
	316	0	76	0	2	73	1	1	72	3	1	72	3	11	50	15

318	0	76	0	0	75	1	0	74	2	1	72	3	5	64	7
321	0	75	1	0	76	0	2	73	1	1	73	2	12	47	17
322	0	75	1	1	71	4	3	71	2	1	72	3	7	54	15
324	0	75	1	1	75	0	1	75	0	1	72	3	3	70	3

数字は回答大学数

以上